

■株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

上記基準日 定時株主総会については3月31日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。

剰余金の配当受領 期末配当金については3月31日
株主確定日 中間配当金については9月30日

単元株式数 100株

公告掲載新聞 日本経済新聞

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
及び特別口座の口座管理機関

同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
(郵便物送付先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)

証券・銘柄コード 7458

<お知らせ>

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱できませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関になっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
4. 当社は、貸借対照表及び損益計算書並びに連結貸借対照表及び連結損益計算書を、当社ホームページ(<http://www.dkkaraoke.co.jp/>)に掲載しております。

株主優待のお知らせ

2010年3月31日最終の株主名簿に記載された100株以上ご所有の株主様に保有株式数に応じて優待券を贈呈いたします。



所有株式数	年2回発行	
	優待券(*1)	CD交換(*2)
100株以上 1,000株未満	500円券×10枚	1枚
1,000株以上	500円券×25枚	2枚

(*1)当社が運営する「ビッグエコー」店舗、「楽蔵」「ウメ子の家」「びすとろ家」などの飲食店でご利用いただけます。

(*2)優待券全額と引き換えを条件に、アルバムCDと交換いただけます(カタログより選択)。

贈呈時期:2010年6月28日より送付開始
有効期間:2010年7月1日~2010年12月31日

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7458

いいかぶ 検索 Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。 ご回答いただいた方の中から抽選で厚謝(図書カード500円)を贈呈させていただきます

※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

第一興商



CONTENTS

株主の皆様へ

セグメント別概況

連結決算概要

クローズアップ 事業探訪

会社概要

株式の状況

ECHO

Vol.29 第35期 決算のご報告
2009年4月1日~2010年3月31日

第一興商



代表取締役会長兼社長

保志忠彦

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第35期（2009年4月1日～2010年3月31日）の決算のご報告をお届けいたします。

近年、「デジタル・デフレ」ということが言われております。これは、算盤（そろばん）から電卓へ、アナログ時計から電子ウォッチへ、そして辞書から電子辞書へとデジタル化したことにより、価格が安くなるということです。

実は、当業務用カラオケ業界は今から十数年前、既にデジタル化による変革を経験しています。

当時、システムの主流であったレーザーディスクのカラオケが、通信カラオケシステムに取って代わることで、その価格が3分の1から4分の1になったのです。

次にシステムの大きな変化があるとすれば、それはクラウド化なのでしょうが、これには、ひとつが止まればすべてが止まるという、業務用の仕組みとしては大きなリスクを孕んでいます。さらに、私見ではありますが、将来、可能性のある海外からのコンテンツ送信には著作権法上のリスクも抱えているように思われます。

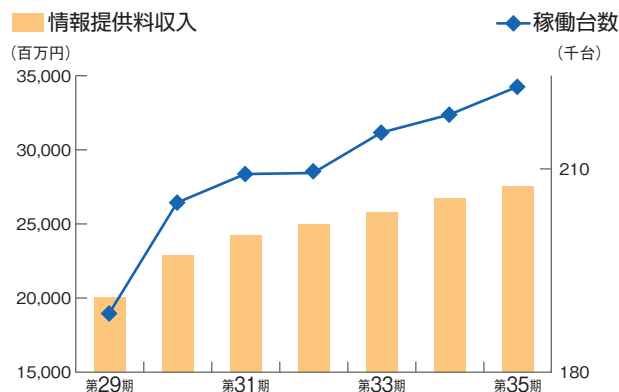
従って、当面は現行システムが続くと思われませんが、これは、稼働する機器から安定的に入ってくるカラオケコンテンツの提供料収入が収益の基となるものであ

り、その稼働台数シェアが大きくなければ採算が取れないという宿命があります。そしてこれが、通信カラオケ出現時に13社あったメーカーが、現在、当社を含めて2社になった最大の要因であり、ひいては当ビジネスにおける新規参入の難しさになっております。

このようななか、現在当社は、業務用カラオケ機器の稼働台数シェア60%に迫りつつあり、今後もリーディングカンパニーとして、当社グループと業界の発展のため邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き倍旧のご支援ご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

情報提供料収入と稼働台数の推移



	04/3期 (第29期)	06/3期 (第31期)	08/3期 (第33期)	10/3期 (第35期)
稼働台数(台)	188,661	209,240	215,355	222,110
情報提供料収入(百万円)	20,020	24,216	25,788	27,546

当期の概況

当期におけるわが国経済は、期後半に輸出関連産業の一部に回復の兆しが見られたものの、円高やデフレ懸念の影響から企業は新たな設備投資や人員雇用に慎重な姿勢を崩さず、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

当カラオケ業界におきましては、個人消費が低迷するなか、クラブ・スナックなどのナイト市場は依然厳しい状況が続いており、カラオケボックスなどのデイ市場におきましても集客は軟調に推移しております。

このようななか、当社グループにおきましては、通信カラオケ「DAM」シリーズにおいて、低シェア地域に重点を置いた販売及び賃貸に注力したことから、「DAM」稼働台数は着実に増加しております。また、6月に発売した新主力商品「プレミアムDAM (DAM-XG1000 II)」の出荷も堅調に推移いたしました。カラオケ・飲食店舗事業におきましては、消費マインドの悪化や新型インフルエンザの流行など厳しい環境のなか、店舗の積極的なスクラップ・アンド・ビルドとコストコントロールの徹底により着実に利益を確保いたしました。音楽ソフト事業では主カアーティストの作品群をベースに「Perfume (パフューム)」や「九州男 (くすお)」のアルバム、「スタジオジブリ」のDVDなどにより収益を確保いたしました。

以上の結果、音楽ソフト事業が減収となったものの、業務用カラオケ事業とカラオケ・飲食店舗事業が増収となったことから、当期の売上高は125,300百万円（前期比0.2%増）となりました。利益面におきましては、業務用カラオケ事業とカラオケ・飲食店舗事業の増益から営業利益は17,439百万円（同4.7%増）、経常利益は18,408百万円（同5.4%増）といずれも前

期に引き続き過去最高益を更新いたしました。また、特別損益の改善はあったものの法人税負担の増加などから当期純利益は10,725百万円（同1.5%減）となりました。

来期の見通し

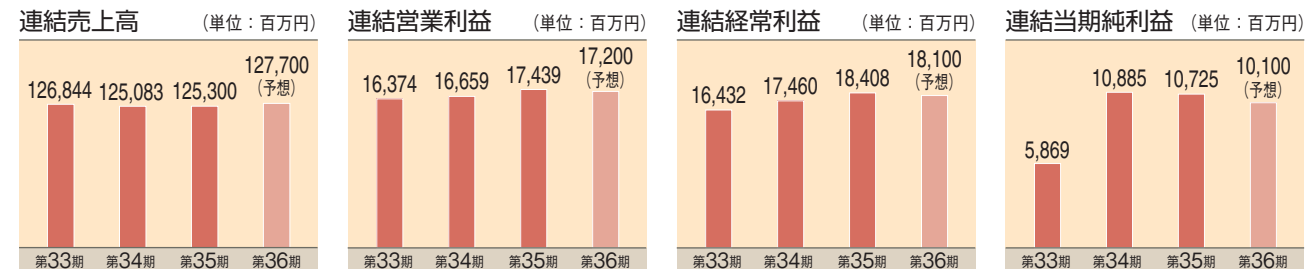
今後の経済見通しにつきましては、一部に景気の底打ち感が見られるものの、依然として個人消費や設備投資の低迷が予想されるなど、厳しい状況で推移するものと思われれます。

当社を取り巻く事業環境におきましても、個人消費の低迷による影響は予断を許さない状況と予想されるものの、身近で手軽に楽しめるカラオケ需要は、弱含みながらも安定的に推移するものと予想しております。

このようななか、当社グループにおきましては、カラオケ業界のリーディングカンパニーとして、常に先進性・信頼性・安全性をモットーに高品質な商品とサービスを提供するとともに、事業環境の変化にも柔軟に対応できる経営体制とコーポレートガバナンスの充実を図り、音楽を通じて社会に貢献する企業グループを目指してまいります。

来期の業績につきましては、売上高1,277億円、営業利益172億円、経常利益181億円、当期純利益101億円を見込んでおります。

連結財務ハイライト



セグメント別概況

業務用カラオケ事業



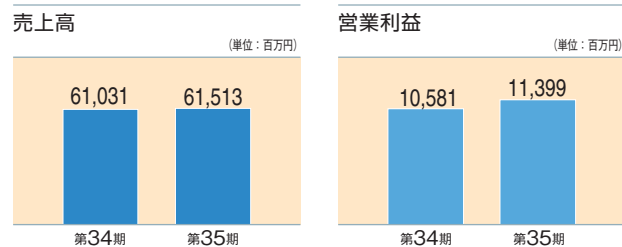
当事業におきましては、長期安定的な収益獲得のため継続してストック型ビジネスの拡大に注力しており、その収益源であるカラオケ機器賃貸件数や「DAM」稼働台数の着実な増加を図るとともに、主力商品「プレミアムDAM (DAM-XG1000II)」の出荷を大手カラオケ事業者などを中心に積極的に推進いたしました。

また、オーディション番組の提供、音楽専門チャンネルとのタイアップ、全国規模のカラオケイベント「全日本カラオケグランプリ」の開催などエンドユーザーに向けたプロモーション活動を通してDAMブランドの価値向上と浸透を図り、他を圧倒する差別化に努めてまいりました。

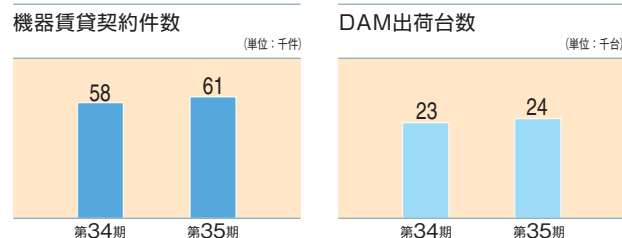
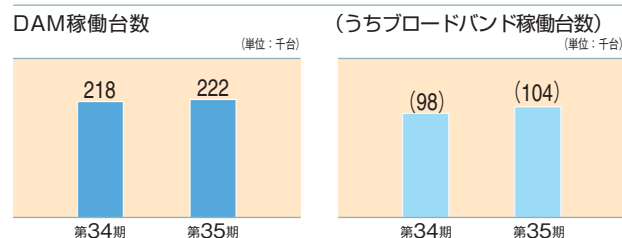
以上の結果、当期の業績は、情報提供料収入が順調に増加したほか、景気後退による投資意欲の減退は見られたものの、新商品の投入効果と大手カラオケ事業者向け商品販売が堅調に推移したことから売上高は前期比0.8%の増加、営業利益は売上原価と販売費の低減にも努めたことから前期比7.7%の増加となりました。

今後の取り組みにつきましては、安定収入の基となる「DAM」シリーズのさらなる稼働台数の増加に注力してまいります。そのため、これまで低シェアであった地域の開拓をさらに強化するとともに、将来市場の先取りとして中高年世代の利用が見込まれるホテル・旅館への提案営業や、デイケア施設などへの導入を強化する「DKエルダーシステム」のコンテンツ開発に注力するなど、

新たな市場の開拓を行ってまいります。また、若年世代のマーケット分析を強化し、カラオケ新スタイルの提案とWebなどを活用したコンテンツの開発により市場の創出に傾注してまいります。



●主要数値



TOPICS (業務用カラオケ事業)

◆ナローバンド環境のナイト市場に特化した通信カラオケシステムとデジタルパワーアンプ発売 (2010年4月)



CYBER DAM α (DAM-G50X)

- 7インチカラー液晶モニターを搭載
- 総楽曲数約78,600曲 (うち生音演奏楽曲約5,100曲) を収録
- 本人出演映像など「一対一映像」を約2,400曲搭載
- 人気の採点コンテンツ「精密採点II」、「完唱!歌いきりまショー!!」に加えて「歓唱!セクシーシスターズ!!」が登場
- 設置場所によって、音の最適化を自動調節するサウンドコーディネート機能を搭載

※楽曲数及び映像数は2010年4月現在です。

デジタルパワーアンプ (DAM-AD4)

- 4本のスピーカーが独立し、それぞれの音量調節が可能
- 瞬時に切り替えられるセレクター機能を搭載し、最大6つの外部機器が接続可能
- デジタル方式の採用で高音質かつ軽量化と省電力化を実現



◆「DAM CHANNEL」新MCに『南 明奈』を起用!

4月からは、“アッキーナ”こと、『南 明奈』が8代目MCに就任。クイズ番組やバラエティー番組で培った抜群のトーク力を活かし、カラオケに関する様々な新企画を展開するなど、番組のさらなる充実を図り、カラオケを楽しむユーザーやそのシチュエーションを盛り上げていきます。

※「DAM CHANNEL」カラオケ演奏の合間に最新の音楽情報をはじめ様々なエンターテインメント情報をお伝えする情報番組

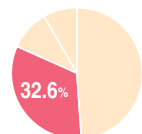
◆音楽を通じた高齢化社会への取り組み

当社が積極的に推進するDKエルダーシステムは、エンターテインメントとレクリエーションを統合した新しい音楽療法です。「音楽プログラム」、「体操プログラム」と「映像プログラム」を使い、音楽と適度な運動を組み合わせることにより、高齢者の心身の活性化や身体機能の維持・回復に効果が期待されています。



セグメント別概況

カラオケ・飲食店舗事業



売上高 **40,897** 百万円 (前期比 **0.8%**増)
 営業利益 **6,202** 百万円 (前期比 **11.8%**増)

当事業におきましては、カラオケルーム「ビッグエコー」と飲食店舗のスクラップ・アンド・ビルドやリニューアルを機動的に進めております。

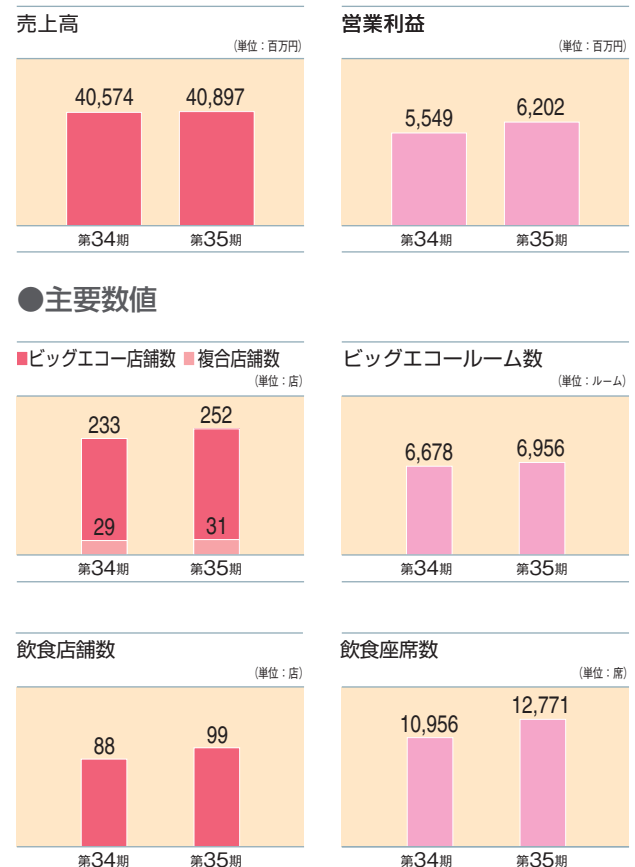
当期におきましては、「ビッグエコー」と飲食4ブランドを併設する大宮東口店や地上8階建てビル一棟に飲食3ブランドを展開する品川港南口店など複合店舗のオープンを含め、「ビッグエコー」29店舗、飲食店舗17店舗を新規出店し、各々10店舗と6店舗を閉店した結果、当期末現在で「ビッグエコー」252店舗、飲食店舗は16ブランド99店舗が稼働しております。

また、廃油・食品残渣や使用済み紙パックのリサイクル、店舗内照明のLED化を進めるなど環境に配慮した活動を行うとともに新型インフルエンザへの対応など安全・安心に向けた取り組みを徹底し、店舗ブランドの維持・向上に努めてまいりました。

以上の結果、当期の業績は、消費低迷の影響から既存店が軟調に推移しましたが、飲食店舗の新店効果により売上高は前期比0.8%の増加となり、売上原価に含まれる店舗家賃など固定費のほか間接コストの圧縮に努めたことから営業利益は前期比11.8%の増加となりました。

今後の取り組みにつきましては、「ビッグエコー」では最高の音・空間・サービスの提供にこだわり、飲食店舗では、ブランドの開発や新業態の開発を行ってまいります。合わせて、立地条件、顧客ニーズへの柔軟な対応が可能な「ビッグエコー」と飲食店舗の複合型店舗展開を

伸展させるとともに、好立地での新規出店に積極的に取り組み、さらなる収益の基盤としてまいります。また、各種法令の遵守はもとより、店舗での廃油・食品残渣・使用済み紙パックなどのリサイクルを進めるとともに、ダウンライトへのLED照明の積極採用、深夜帯の不必要な屋外看板の消灯、禁煙ルームの設置による分煙への取り組みなど安全・安心で環境に優しい店舗づくりを推進いたします。



TOPICS (カラオケ・飲食店舗事業)

「ビッグエコー」

◆ **店内の分煙化を推進**
 ~直営店全店(115店)、
 20%以上のルームを禁煙ルームに設定~

「ビッグエコー」では、可能な限り同一フロアにあるルームを中心として1店舗当たり20%以上のルーム(たとえば、50ルームの店舗では10ルーム~15ルーム程度)を禁煙ルームとして、分煙化を行います。

3月31日現在、ルームの20%以上を禁煙としている店舗は直営店全店となる115店舗で、今後は子会社運営店舗へ順次拡大する予定です。また、禁煙者の利用状況により、30%~40%まで禁煙ルームの割合を増やしてまいります。



◆ **『TABLE FOR TWO』プログラムに参加**
 ~1食につき20円を、開発途上国の学校給食に寄付~



開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病に同時に取り組む、日本発の社会貢献運動『TABLE FOR TWO』プログラム参加メニューを3月15日から導入した春メニューの中に取り入れています。『TABLE FOR TWO』プログラムに参加するのは、日本人に不足しがちな栄養素を多く含むヘルシーメニューで、当メニューの売上金の中から1食につき20円が『TABLE FOR TWO』を通じて開発途上国の学校給食に対して寄付されます。(20円は、開発途上国の給食1食分の金額に相当します)

「ダイニングバー」

◆ **新ブランド**
隠れ家ダイニング
夢や京町しずく 八重洲店 オープン

庭園個室で楽しむ京の風情の和空間で、創作和食とおばんざいをご堪能ください。
 東京都中央区日本橋3-2-17 日伸ビル2F
 ☎03-5205-6622



◆ **新コンセプトの「とり蔵」オープン**
串焼炙り とり蔵

日本の祭りをコンセプトに、焼き鳥とご当地グルメを気軽に楽しめるこだわりの居酒屋ダイニングをご堪能ください。

- 蒲田店**
 東京都大田区蒲田5-13-31 ALハウス蒲田内1F
 ☎03-5744-7677
- 岡山本町店**
 岡山県岡山市北区本町3-23 大関ビル1F
 ☎086-803-5500
- 水道橋店**
 東京都千代田区三崎町2-10-3 TDSビル1F
 ☎03-3265-1017



セグメント別概況

音楽ソフト事業

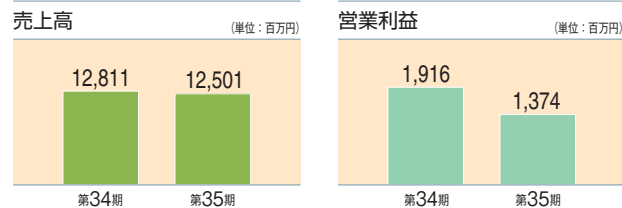


当事業におきましては、返品率の改善やコストコントロールによる経営の効率化に取り組むなか、日本クラウンの「北島三郎」や徳間ジャパンコミュニケーションズの「水森かおり」など根強いファンを持つアーティストの作品が堅調に推移いたしました。また、徳間ジャパンコミュニケーションズの「Perfume (パフューム)」や「リュ・シウォン」、日本クラウンの「九州男 (くすお)」のアルバム、「スタジオジブリ」のアニメ映画DVDが好調に推移し、収益に貢献いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は前期比2.4%減少し、営業利益につきましても売上高の減少と原価率の高いアニメ映画DVD作品の販売比率が上昇したことにより、前期比28.3%と大幅な減少となりました。

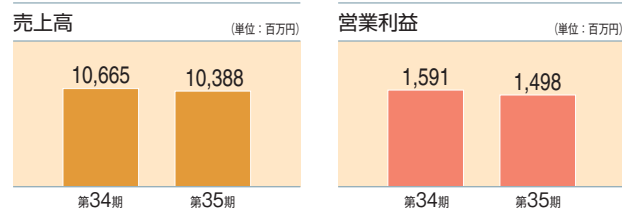
今後の取り組みにつきましては、子会社の日本クラウンと徳間ジャパンコミュニケーションズにおける経営体質の強化が図られるなか、新人アーティストの発掘からヒット曲の創出までの好循環サイクルが定着しつつあります。

安定してヒット作をリリースする「Perfume (パフューム)」(徳間ジャパンコミュニケーションズ)などに続き、名古屋・栄 (さかえ) を活動拠点とするアイドルグループ「SKE48」(日本クラウン)などが期待されており、当社グループの総合力を活かしたサポートと積極的なプロモーション活動を行ってまいります。



業などその他の事業におきましては堅調に推移いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は前期比2.6%減少し、営業利益も前期比5.8%の減少となりました。



その他の事業



当事業におきましては、携帯電話向けコンテンツサービスや「スカイパーフェクTV」をプラットフォームとする衛星放送事業のほか、ホテル事業を含むその他の事業を行っております。携帯電話向けサービスと衛星放送の加入者数は減少傾向で推移しておりますが、ホテル事

TOPICS (音楽ソフト事業)

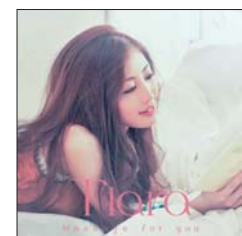
◆話題のアーティスト・作品

CROWN NIPPON CROWN Co.,Ltd.



SKE48

秋元康総合プロデュースのもと、AKB48の妹分的な存在として名古屋を拠点に活動するSKE48。2ndシングル「青空片想い」はオリコンシングルウィークリーランキング初登場3位を記録! ニューシングルは、7月7日に発売が決定! 「会いにいけるアイドル」として人気爆発中です。



Tiara

Spontania・SEAMO・KGなど名だたる客演アーティストをシングルに迎え、配信を中心に大ブレイクしているTiara。1stアルバム「Message for you」にはこの3曲のほか、岡本真夜や古内東子から楽曲提供を受け、せつない曲からハッピーな曲までラブソングが満載! 今、大注目のアーティストです。



大江 裕

「恐れいります〜う」が口癖で個性的なキャラクターの大江裕が初のアルバム「演歌大将・大江裕〜日本列島 歌飛脚I〜」を発売。「函館の女」から始まり、「涙そうそう」など、10曲のカバー曲とオリジナル曲を含んだ全12曲で日本各地を席卷します。



Perfume

1年ぶりのニューシングル「不自然なガール/ナチュラルに恋して」を発売し、シングルとしては過去最高のセールスを更新中! 結成10周年、メジャーデビュー5周年を迎えた今年、CM出演や夏フェスにも多数登場するなど、ますます彼女たちから目が離せません!



風流〜fool you

復活愛を歌ったデビュー曲「再恋STORY」が早くも10万ダウンロードを突破! 彼らは、元お笑い芸人のko-jiと元バンドマンのyoshioの2人からなる大阪をベースに活躍するヴォーカル&ラップユニット。新曲「ふと思いだすんだ」の配信も好調。注目度急上昇中です!
※楽曲ダウンロード数は、2010年4月末現在



水森 かおり

ご当地ソングとしては11作目のシングル曲「松島紀行」を発売。ジャケットとカップリング曲が違う、紅・白2パターンを同時発売し、オリコンシングルウィークリーランキング初登場2位にランクイン! デビュー15周年を迎え、さらなる飛躍を目指します。

連結決算概要

▶ 詳細な財務情報は、

当社ホームページ「IR情報」<http://www.dkkaraoke.co.jp/ir/ir.html>をご覧ください。

連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	第34期 2009年3月31日現在	第35期 2010年3月31日現在
資産の部		
流動資産	48,321	50,926
固定資産	75,973	74,849
有形固定資産	47,677	45,986
無形固定資産	7,026	7,420
投資その他の資産	21,269	21,441
資産合計	124,295	125,776
負債の部		
流動負債	27,988	26,866
固定負債	16,975	14,854
負債合計	44,964	41,721
純資産の部		
株主資本	79,825	84,226
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	20,362	17,285
利益剰余金	49,207	55,563
自己株式	△ 2,094	△ 973
評価・換算差額等	△ 1,184	△ 1,000
その他有価証券評価差額金	△ 317	△ 153
土地再評価差額金	△ 777	△ 777
為替換算調整勘定	△ 90	△ 68
少数株主持分	690	828
純資産合計	79,331	84,054
負債及び純資産合計	124,295	125,776

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 流動資産	POINT
流動資産の増加2,604百万円は現金及び預金の増加4,167百万円、受取手形及び売掛金の減少1,557百万円が主なものであります。	
● 固定資産	
固定資産の減少1,124百万円はカラオケ賃貸機器の減少678百万円、土地の減少249百万円、敷金及び保証金の減少215百万円が主なものであります。	
● 流動負債	
流動負債の減少1,121百万円は短期借入金の減少4,226百万円、未払金の減少666百万円、支払手形及び買掛金の減少499百万円、未払法人税等の増加3,981百万円が主なものであります。	
● 固定負債	
固定負債の減少2,121百万円は長期借入金の減少2,201百万円が主なものであります。	

連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	第34期 2008年4月1日から 2009年3月31日まで	第35期 2009年4月1日から 2010年3月31日まで
売上高	125,083	125,300
売上原価	72,072	72,324
売上総利益	53,010	52,976
販売費及び一般管理費	36,350	35,537
営業利益	16,659	17,439
営業外収益	1,609	1,603
営業外費用	808	633
経常利益	17,460	18,408
特別利益	269	490
特別損失	2,281	1,683
税金等調整前当期純利益	15,449	17,215
法人税、住民税及び事業税	3,807	7,133
法人税等調整額	597	△ 784
少数株主利益	158	140
当期純利益	10,885	10,725

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

<注記事項>	第34期	第35期
1. 有形固定資産の減価償却累計額	51,956百万円	53,776百万円
2. 保証債務	623百万円	551百万円
3. 担保提供資産	7,632百万円	6,880百万円
上記に対応する債務	3,873百万円	2,908百万円
4. 1株当たり当期純利益	158円76銭	160円17銭
5. 1株当たり純資産額	1,165円60銭	1,263円54銭

● 売上高	POINT
音楽ソフト事業が減収となったものの、業務用カラオケ事業とカラオケ・飲食店舗事業が増収となったことから前期比0.2%増加の125,300百万円となりました。	
● 営業利益・経常利益	
業務用カラオケ事業とカラオケ・飲食店舗事業の増益から、営業利益は前期比4.7%増加の17,439百万円、経常利益は同5.4%増加の18,408百万円といずれも前期に引き続き過去最高益を更新いたしました。	
● 当期純利益	
特別損益の改善はあったものの法人税負担の増加などから前期比1.5%減少の10,725百万円となりました。	

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	第34期 2008年4月1日から 2009年3月31日まで	第35期 2009年4月1日から 2010年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,490	31,141
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,110	△ 14,116
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,997	△ 12,754
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 98	22
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,283	4,293
現金及び現金同等物の期首残高	28,300	29,584
現金及び現金同等物の期末残高	29,584	33,877

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 営業活動によるキャッシュ・フロー	POINT
・税金等調整前当期純利益	17,215百万円
・減価償却実施額	13,781百万円
・売上債権の減少額	1,576百万円
・法人税等の支払額	3,052百万円
● 投資活動によるキャッシュ・フロー	
・有形固定資産の取得による支出	9,164百万円
・無形固定資産の取得による支出	3,914百万円
● 財務活動によるキャッシュ・フロー	
・長期借入金の返済による支出	9,952百万円
・配当金の支払額	4,359百万円
・長期借入による収入	3,730百万円

連結株主資本等変動計算書

第35期(2009年4月1日から2010年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2009年3月31日残高	12,350	20,362	49,207	△ 2,094	79,825	△ 317	△ 777	△ 90	△ 1,184	690	79,331
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△ 4,369		△ 4,369						△ 4,369
当期純利益			10,725		10,725						10,725
自己株式の取得				△ 1,955	△ 1,955						△ 1,955
自己株式の消却		△ 3,076		3,076	—						—
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						163	—	21	184	137	322
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 3,076	6,355	1,121	4,400	163	—	21	184	137	4,723
2010年3月31日残高	12,350	17,285	55,563	△ 973	84,226	△ 153	△ 777	△ 68	△ 1,000	828	84,054

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



株式会社 第一興商
専務取締役 兼 上席執行役員 店舗事業本部長
根本 賢一

クローズアップ 事業探訪 Vol.1

“カラオケ”だからこそできる 社会への貢献をめざして

店舗における環境対策をはじめ、多彩な社会貢献施策を積極的に展開する第一興商の「ビッグエコ」。その取り組みの意義や成果、さらに今後の展望などについて、店舗事業本部長の根本賢一がご説明します。

「共感」という社会貢献の大きな意義

第一興商が社会貢献、とりわけ環境問題を大きな経営テーマと考えるようになったのは、「京都議定書」が発効された2005年ごろからです。以降、様々な形で環境問題にアプローチしながら、2008年5月からの廃油リサイクルを皮切りに、「ビッグエコ」での本格的な社会貢献施策を開始しました。さらに2009年1月には、2012年までに温室効果ガスを1990年比で6%削減する、いわゆる「チーム・マイナス6%」(現在の「チャレンジ25キャンペーン」)に会社として参加。現在では、『BIG ECHO ECO PROJECT』という環境配慮施策など多岐にわたる取り組みを展開するに至っています。

こうした店舗での様々な社会貢献施策を実施していく上でとても大切なのが、お客様の共感を得ることです。“社会の大きな動きと呼応しながら、世の中のために一生懸命頑張っている。そして、それが自分たちの利益にも繋がって、さらに、地域社会全体をリードしてくれる。”お客様はそんなお店、そんな会社に好感を覚え、そして、「ビッグエコ」の、第一興商のファンになってくれます。共感に根ざしたこのようなファンづくりの取り組みは、ビジネスの上でも極めて有意義なことで、私どもが様々な社会貢献活動に注力する、ひとつの大きな理由となっています。

業界へ、スタッフへ、広がる波及効果

さらにいえば、社会貢献活動の意義は何も自社のことだけにとどまりません。

「ビッグエコ」では、社会貢献に加えて顧客満足度向上に寄与する施策として、業界に先駆けて昨年11月から店内分煙化を推進しています。この分煙化には喫煙・禁煙ルームの配分比率やオペレーション面で実は大きな困難が伴います。

しかし今後、業界全体に広がっていくであろうこうした動きが、結果的にカラオケルームというもののイメージアップに繋がり、カラオケを歌いたいという人を増やして業界を潤し、ひいては自社の利益にも繋がっていく。そういう意味で、私どもにはカラオケ業界のリーディングカンパニーとして業界全体を牽引していく責務があると信じてやみません。

一方で、店舗施策の波及効果はカラオケルームに勤務する店舗スタッフ一人ひとりのマインドにも及んでいます。例に挙げた分煙化にしても、実際の難しさがあるにもかかわらず、個々のお客様の



分煙表示ポスター

嗜好に応じて快適性を追求する本気の姿勢を会社として示すことが、接客や清掃といった面でもより高いサービスを提供したいという意識をスタッフの間に芽生えさせ、それが確実にサービスクオリティとモチベーションの向上に繋がっているのです。

カラオケが、人々のためにできること

「環境保全に貢献できて、しかもお得!」とお客様から大変なご好評をいただいている『BIG ECO得キャンペーン』や、「お客様に胸を張って対象メニューをお勧めできる」と店舗スタッフからの評判も上々の『TABLE FOR TWO』プログラム参加など、次々とアイデアを形にしている「ビッグエコ」ですが、実はこうした企画はそのほとんどがスタッフから提案されてきたものです。スタッフ一人ひとりがビジネスと同等に社会貢献ということを常に意識しながら、ボトムアップでどんどん新しい施策を提案してくれる。こうした個々人の自発性、積極性は実に頼もしく喜ばしい限りです。

今後も多彩な店舗施策を通じて、社会貢献や顧客満足を追求していく姿勢に変わりはありませんが、弊社がこれから

の大きなテーマとして考えているのは、カラオケ業界だからこそできる、カラオケの会社にしかできない社会貢献です。

店舗施策ではありませんが、その観点から現在、弊社が取り組んでいる計画のひとつが、高齢者の方を対象にカラオケと健康との相関関係を産学協同で究明する『エルダーコンテンツプロジェクト』です。カラオケを歌うことは心身の健康に良い、そんな誰もが直感的に感じていることを、臨床的に実証していきたいと考えています。証明されれば、それはまさにカラオケだからこそできる社会貢献であり、当然カラオケ事業の成長に繋がって、業界で働く人のモチベーションも大いに上がることでしょう。

地球環境の保全や社会の健全な発展に貢献しながら、ビジネスの成長にも寄与することをめざす第一興商の社会貢献活動。さらなる充実化をめざす今後の取り組みに、どうぞご期待ください。



「ビッグエコ」における社会貢献施策一覧

施策		概要
BIG ECHO ECO PROJECT	廃油リサイクルへの取り組み	店舗で回収した廃油を店舗のハンドソープ原料へ循環型リサイクル
	深夜照明の消灯	各店舗で基準を定め、深夜帯に不必要な看板照明を消灯
	省エネ照明デザイン店舗の取り組み	新規店舗を中心に低消費電力のLEDダウンライトを順次導入
	紙バック循環型リサイクルへの取り組み	店舗で使用された紙バックを店舗のトイレトーパー原料へ循環型リサイクル
	『BIG ECO得キャンペーン』の実施	お客様が持参した使用済み紙バックの枚数に応じてフードメニューをプレゼント
	食品残渣リサイクルへの取り組み	店舗で発生する食品残渣を回収し、家畜の飼料にリサイクル
	ユニフォームリサイクルの取り組み	店舗スタッフの従来のユニフォームを燃料としてリサイクル
店内分煙化の取り組み		直営店全店(115店舗※2010年3月末)でルームの20%以上を禁煙ルームとして確保
『TABLE FOR TWO』プログラムへの参加		社会貢献運動『TABLE FOR TWO』プログラムに参加し、提供メニュー1食につき20円を開発途上国の学校給食に寄付

会社概要

会社概要 (2010年3月31日現在)

商号	株式会社 第一興商 (英文表記) DAIICHIKOSHO CO., LTD.
所在地	〒141-8701 東京都品川区北品川5-5-26 電話 (03) 3280-2151 (大代表)
設立	1973年4月16日
資本金	12,350百万円
従業員数	当社 1,562名 グループ 3,156名
JASDAQ上場	1995年9月19日

役員 (2010年6月27日現在)

代表取締役会長兼社長	保志忠彦
専務取締役 兼 兼上席執行役員	林三郎
専務取締役 兼 兼上席執行役員	根本賢一
常務取締役 兼 兼上席執行役員	保志忠郊
常務取締役 兼 兼上席執行役員	和田康孝
常務取締役 兼 兼上席執行役員	青柳泉
常務取締役 兼 兼上席執行役員	熊谷達也
常務取締役 兼 兼上席執行役員	三富洋
取締役 兼 兼執行役員	村井裕一
取締役 兼 兼執行役員	渡邊泰人
取締役	吉川満
取締役	清水義美
常勤監査役(社外)	掛川洋
常勤監査役(社外)	石坂文人
常勤監査役	高瀬信行
監査役(社外)	有近真澄
執行役員	有馬伸治
執行役員	三宅彰
執行役員	黒川憲太郎
執行役員	西島勲
執行役員	小澤慎一
執行役員	田中浩二
執行役員	小椋久広
執行役員	末角浩彦
執行役員	飯島毅
執行役員	羽成一夫

第一興商グループ 当社及び連結子会社

39社

(2010年3月31日現在)



主な事業内容

- 業務用カラオケ事業
- カラオケ・飲食店舗事業
- 音楽ソフト事業

国内販売子会社 25社

(株)北海道第一興商	(株)城北第一興商	(株)北陸第一興商
(株)釧路第一興商	(株)台東第一興商	(株)京都第一興商
(株)北東北第一興商	(株)城東第一興商	(株)第一興商近畿
(株)東北第一興商	(株)城西第一興商	(株)京阪第一興商
(株)福島第一興商	(株)湘南第一興商	(株)兵庫第一興商
(株)常磐第一興商	(株)新潟第一興商	(株)九州第一興商
(株)群馬第一興商	(株)長野第一興商	(株)沖縄第一興商
(株)栃木第一興商	(株)静岡第一興商	
(株)埼玉第一興商	(株)東海第一興商	

その他国内子会社 10社

(株)ディーケーファイナンス	(株)ディーケー音楽出版
日本クラウン(株)	(株)クラウンミュージック
(株)徳間ジャパンコミュニケーションズ	(株)ズームリパブリック
クラウン徳間ミュージック販売(株)	ユニオン映画(株)
(株)トライエム	丸萩洋酒工業(株)

海外子会社 4社

(株)韓国第一興商	第一興商電子貿易(上海)有限公司
第一興商(上海)電子有限公司	D.K.Enterprises(Guam), Inc.

(注) 1. 上海必愛歌音楽餐飲有限公司及び上海星歌音楽餐飲有限公司は2009年12月に株式の全部を売却したため、連結の範囲から除いております。
2. Daiichi Koshu (Singapore) Pte Ltd. は2010年2月に清算終了しております。
3. (株)ファーストディストリビューションは2010年3月にクラウン徳間ミュージック販売(株)に商号変更しております。

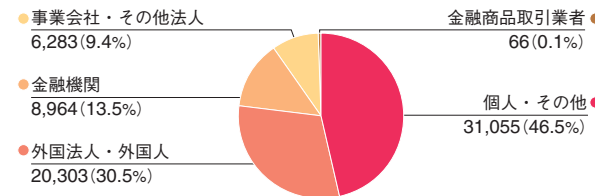
株式の状況 (2010年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 200,000,000 株
- 発行済株式の総数 66,670,596 株
- 株主数 13,352 名
- 大株主

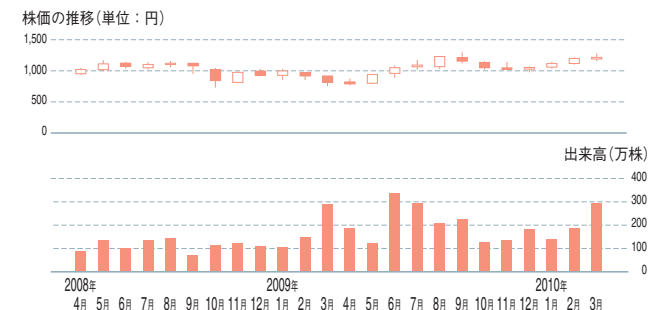
株主名	持株数 (千株)	所有割合 (%)
保志忠 郊	8,069	12.1
保志治 紀	8,020	12.0
(有)ホシ・クリエート	4,449	6.6
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	2,678	4.0
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	2,503	3.7
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES SINGAPORE/ BP2S SYDNEY/JASDEC/AUSTRALIAN RESIDENTS	1,847	2.7
メロンバンクリーティークライアントオムニバス	1,549	2.3
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー-505223	1,321	1.9
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,278	1.9
三菱UFJ信託銀行(株)	1,148	1.7

1. 当社は802,735株の自己株式を保有しております。
2. 持株数、所有割合は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■所有者別株式分布 (単位:千株/構成比)



■株価(月足)チャート



ホームページのご案内

当社のホームページでは投資家の皆様には役立つ様々な情報を掲載しております。ぜひアクセスしてください。

URL <http://www.dkkaraoke.co.jp/>



トップページ



IR情報

事業のご案内